

第97号

平成24年5月27日発行

群馬県山岳連盟

〒371-0005 前橋市堀之下町494-2

女屋 等志方

TEL 027-269-4570

FAX 027-269-4583

編集発行人
群馬岳連編集委員会 岡安茂能
印刷所 朝日印刷工業(株)



第二十六回群馬県民の日記念事業 「群馬山と森の月間」協賛

第三十三回県民登山大会報告

中之条山の会 長谷川 勇

平成二十三年十月二十三日、野反湖周辺の山を会場として、第三十三回県民登山大会が開催されました。本年五月に佐藤理事長から中之条山の会に主管の打診があり、計画実施まで五ヶ月と忙しく感じながらも、これまで四万周辺

と野反湖周辺の山を会場とした県民登山大会を二度程してきましたが、二回目以降すでに十四年も経過しているため快く承諾し、旧六合村との合併後でもある野反湖周辺を会場に準備に入り、その後、境町山の会からの協力もあり順調

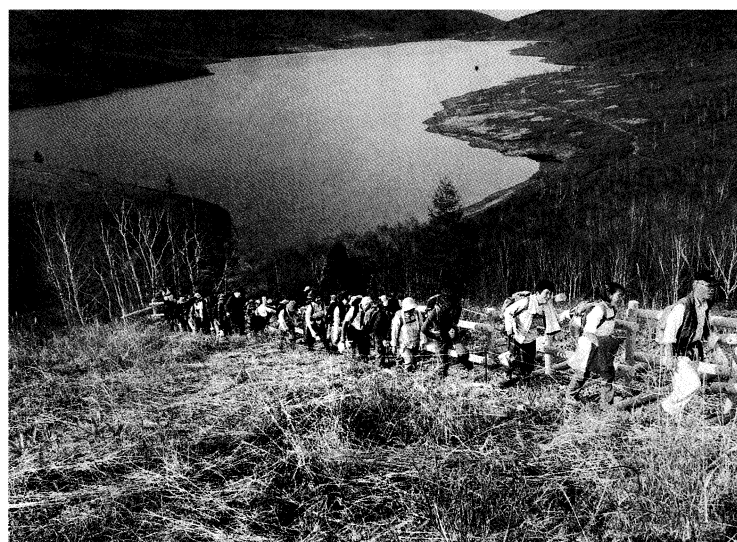
に計画が進みました。
境町山の会との準備に入りコース設定や現地調査に入りましたが、この秋の台風十五号によって野反湖へ通じる国道四〇六号の和光原―野反湖間が道路陥没によって通行止めとなり、一時山城変更も考えました。暫らくして現場の山側切り上げ等によって夜間通行止めとなりましたが、大会前には解除され、無事大会当日を迎えることが出来ました。

なく、役員・一般参加者も現地参加をとることが出来ました。紅葉の六合地区から富士見峠に着くと野反湖を取り巻く山々はすでに落葉しており、葉の落ちた白樺の幹は見事な景観でした。
開会式は大会会長の羽野順一岳連会長の挨拶から始まり、続いて関祐司中之条町副町長の歓迎の挨拶が行われ、羽野会長から中之条町、町教育委員会、町体育協会へ感謝状が贈られた後、佐藤大会委員長挨拶及び役員紹介が行われました。本年の県民登山大会は岳連理事会の決定により、環境省の定める「環境衛生週間」に合わせた群馬県秋の環境美化運動の一環として実施されました。自然保護委員会からも七名が参加し、出発前に斎藤長作委員長より空き缶等のゴミ拾い・清掃活動について奨励、挨拶がありました。下山後集められたゴミは地元自治体によって引き取られました。

野反湖を背に



八間山へ



Aコース八間山、Bコースエビス山の二コースの組み分け後、A・BコースのCLによるコース説明が行われ、準備運動を済ませそれぞれ山へ入って行きました。
事前に女屋事務局長から地元産の記念品があればとの連絡があり、

予算的なこともあり温泉の多い中之条町にある温泉地の温泉の素を選び理事会上に提案し決められましたが、地元PRを兼ねた観光案内と共にどこでも入手できる市販品よりは良かったかと思いました。

最後に一般会員の人数確認によつて事故・トラブルがなく閉会式が出来、ご協力を頂いた中之条町、六合支所、中之条町教育委員会、中之条町体育協会、群馬県山岳連盟の役員の方々に感謝申し上げます。県民登山大会の報告といたします。

《Aコース・八間山》
CL 伊能敏幸
(中之条山の会)

季節的には雪が降ってもおかしくないこの時期、心配した天気も何とかもちそうです。開会式終了後、役員紹介を行い、コースごとに分かれてコース説明後、参加者の確認を行つてスタートとなった。(八時三十五分)。

一般参加者及び役員合わせて六十四名という大所帯となる。十人位の班に分けようかという案もあったが、今回は皆さん一緒に行動という事に決定。自分も暫くぶりの県民登山参加で、要領が良く分からない。Aコースは、中之条

山の会、大間々山岳会のメンバーが中心となつて、リーダーを勤める。一般参加者に合わせてゆつくりと歩き出す。それでも立ち止まつて写真を撮ったりする人がいるから、間が開いてしまう。まあ仕方ない事かな。他の登山者がいないから、大所帯でも迷惑はかけないようだ。

が眺めはいい。
(十時七分)、八間山山頂到着。まずまずの展望。決して広くない山頂なので、皆さん思い思いに休憩。ここには古くなつて朽ち果てた避難小屋がある。新しい小屋が欲しいところだ。小休止後、堂岩山への道を分けて、ダムサイト方面に下り出す。こつちは展望があまりない。一度車道に出て小さなピークを登り返してから、白砂山の登山口となる



弁天山からエビ山へ

る駐車場まで行つて昼食休憩とする。(十二時三十一分)。
薄日も差して少しは温かい。昼食後、舗装道路を池の畔パーキングまで登り返してから、湖畔のハイキングコースに入る。今年の大雨で、ウッドチップが流されている場所もある。最後はチョッと登り返して富士見峠にゴール。(十四時三十七分)。大きなトラブルもなく、皆さん無事晩秋のハイ



エビ山頂上から

キングを楽しめたようです。

この時期天気が悪いと雪が降つたりして、寒くてとてもハイキングなど出来ない日になってしまうが、今日は、いい日に恵まれ助かりました。大勢の人を引率する難しさを感じた山行となりました。

《Bコース・エビ山》
CL 星野俊充
(境町山の会)

参加者 三十一名
コースと行動実績
富士見峠休憩舎(八時四十分)―

弁天山(九時十分)―湖畔周遊コース分岐(九時四十五分)―エビ山(十時五十五分)―第二キャンプ場(十二時から十二時四十五分)―富士見峠休憩舎(十四時十分)
行動時の参加者確認

名簿順に班を二班に分け、各休憩ポイントの出発時に班毎に点呼を取り参加者の存在確認を行なった。行動は班に関係なく先頭(サブリーダー)と最後尾(リーダー)の間で自由行動とした。

初心者と思われる参加者には一、二名の役員をサポートとして行動終了まで流動的に同行させた。

感想

当日明け方まで雨が降っていたが、集合時間前には上がり曇り空となる。登山道の整備状況も非常に良く、雨の影響も殆んど感じられなかった。

湖畔周遊コース分岐からエビ山は最後が急登となるため、参加者何名かの足運びが気になりはしたが、それ以降の行程で不安を感じることにはなかった。

おわりに、自治体との折衝やトン汁の準備をしていただいた長谷川さんを始めとする中之条山の会の皆様に紙面をお借りして御礼申し上げます。

平成二十二年 度

全国高校総体登山大会

高崎女子高校山岳部優勝

群馬県立高崎女子高等学校 顧問 八 木 茂 之

(一) 期 日

平成二十三年八月九日(火)

～十三日(土)

(二) 会 場

青森県岩木山・北八甲田山系

(三) 大会日程

八月七・八日(日・月) 受付

八月八日(月)

監督・リーダー会議

連絡・諸注意・質問に対す

る回答等

八月九日(火)

宿舎より計画輸送 受付 ア

トラクション

登山嚢子保存会による登山

嚢子・ねぶた嚢子

開会式

登山隊編成

審査

自然観察テスト・救急知識

テスト・気象知識テスト・

天気図作成

コース隊編成

ここまでの会場は岩木山総

合公園管理棟岩木青少年ス

ポーツセンター幕营地へバ

ス移動

引継式

幕営審査

交流会(男女合同)

炊事審査

八月十日(水)

引継式

嶽コース

幕营地駐車場

岩木山八合目駐車場

メイン・パーティー行動

制限時間一二〇分 一斉ス

タート

八合目く岩木山山頂く八合目

サブ・監督付パーティー行

動

八合目く幕营地駐車場

制限時間一一〇分

登山行動中の地点確認二箇

所

講話

引継式

設営・生活技術審査

八月十一日(木)

引継式

百沢コース

百沢スキー場駐車場に移動

天候によりコース変更

駐車場く焼止りヒュッテ

メイン・パーティー行動

制限時間一四〇分 一斉ス

タート

焼止りヒュッテく駐車場

制限時間なし 着順で下山

登山行動中の地点確認二箇

所

バスにて幕营地に戻る

採点等返却

バスにて酸ヶ湯幕营地移動

引継式

設営・炊事審査

八月十二日(金)

引継式



一斉スタート (岩木山青年スポーツセンター駐車場)



B 隊群馬高女パーティ

北八甲田山 大岳コース

終日 サブ・隊行動

幕营地より上毛無岱分岐

登山行動中の地点確認四箇

所

審査員下山

上毛無岱分岐より大岳避難小屋

時間調整より大岳山頂より仙人

岱より地獄沢より幕营地

幕营地にて解団式

バスにて各宿舎へ移動

途中の道の駅にて採点等返却

八月十三日(土)

宿舎より岩木山総合公園

管理棟へ移動

閉会式

講評・成績発表

(四) 成績

優勝(団体女子B隊は、四十四

校参加)

体力29・6 歩行9・1 装

備10・0 設営撤収9・8

炊事5・0 気象テスト2・0

天気図4・8 自然観察テス

ト3・9 読図3・5 計画書

6・0 記録書4・0 救急テ

スト1・9 医薬品3・0 マ

ナー5・0 計97・6

二位 盛岡南高校 96・7

三位 宮城第一高校 96・6

四位 富士宮西高校 96・6

五位 東根工業高校 96・2

六位 千葉東高校 95・9

以上 入賞校

(五) 選手

小野澤清楓、小坂橋瑞穂、

松岡奈津美、宮川あかり

東北勢が強さを発揮した大会で

あった。(入賞した六校中、東北

勢が三校)十回以上現地入りした

高校もあったとき。本校は、下

見には入れない分、リーダー小野

澤を中心に何度も読図シミュレー

ションを行っていた。一箇所落と

したものの、見事読み切った。小

野澤・小坂橋両名は、昨年の出場

経験を生かし、今大会に向けて緻

密な計画を立てて、練習に励んで

きた。特にペーパーテストに力を

入れようと二年生の松岡・宮川と

ともに早くから担当を決め、取

り組んでいた。その成果が現れ

た。宮川は天気図、松岡は自然観

察テストは、女子のトップの成績

であった。毎年減点されていた計

画書も満点を取ることが出来た。

リーダーを中心によくまとまり、

大きなミスもなく大会期間を乗り

切ったことが、勝利に繋がった。

課題は、歩行である。高女の過去

の記録と比較すると明らかに山行

の数が減っている。土日に山行を

計画しづらい昨今ではあるが、変えていければと思っている。

最後に、これまで支えてくだ

さった多くの方々に感謝申し上げ

ます。

《生徒感想》

松岡 奈津美

インターハイに出場し、最高の

結果を収めることができ、大変嬉

しく思っています。

大会前の練習は辛い時もありま

した。四人の一つの目標へと向か

う強い意志と自分に与えられた責

任のため、頑張ることができまし

た。また、周りの方々の支えがと

ても心強く、私達の味方となりま

した。

大会中は、これまでの成果を発

揮するために目の前のことに懸命

に取り組みました。私達は下見に

は入れなかったため、事前に毎日

シミュレーションをしました。そ

の成果があつて落ち着いて登るこ

とができました。天候にはあまり

恵まれませんでした。岩木山も

八甲田山も素晴らしい山でした。

このよい思い出となった山にいつ

かもう一度登りたいです。

山岳競技を通して四人で過ごし

た時間は、とても貴重で楽しいも

のでした。この経験は私を成長さ

せてくれました。支えてくださった方々に感謝しています。そして、来年は後輩を率いる立場となりますが、この経験を生かして頑張りたいです。

宮川 あかり

私は入部当初から「日本一の山人」を意識していました。というのも私は初め、山の魅力にひかれつつも女子高校生が山岳をやると

上州武尊山スカイビュートレイル

群馬岳連理事長 佐藤 光 由

第一回上州武尊山スカイビュートレイルでは大変お世話になりました。皆様の協力のおかげで事故も無く大会を終える事ができました。心から感謝いたします。翌日三日の武尊山頂は初雪でした。この時期の二〇〇〇m稜線状態を痛感しました。

今回、山田昇杯の後継大会としてスタート。鏑木さんをプロデューサーとし、川場村と山岳連盟が協力しての実行委員会主催としました。地元川場の女性トレイルランナーで有名な星野緑さんにも協力をいただき、七六〇人というエントリー数で大会を迎えました。

無事に終えたものの、たくさんの課題点、不都合があったと

準備を進めてきた委員会が感じております。山中での選手チェックの簡素化、エイドポイントの位置やエイド内容等、これから検討が必要です。

山田杯を企画した田中元理事長は、山田杯の意義の一つとして「専門委員会だけで活動するのではなく横のつながりも持たたい」と言っていた。岳連の衰退をひしひしと感じられる今、各会の会員同士が顔を合わせる場所がほしいとこの大会でも思いました。

今までの山田杯とは大会規模が違います。少人数での大会マナー、ネットの限界を感じました。皆様の協力が必要です。次回大会（九月三十日）もよろしくお願いいたします。



表 彰 式

いうことに抵抗を感じていたので、「やるからには頂点を。」という言葉を契機づけにして入部を決意しました。はつきりとしたものではなかったこの夢を真剣に意識し始めたのは、先輩の「目標はインターハイ優勝」という言葉を聞いたときからでした。そこから練習を積み重ねて、部活内で学年二人の選手に選ばれ、県総体を勝ち抜いて目標へと歩みを進め、八月十三日のインターハイの閉会式のときについに現実のものとなりました。

優勝を手にしたときはそれまで追い求めてきたものにもかかわらず、大きすぎる結果を受け止めきれずにいました。今は喜びと感謝の気持ちでいっぱいです。この結果に至るまでに多くのことを教えてくださりお力添えくださった先生、そして先輩の目標への挑戦であったこの大会にチームのメンバーとして私を選んでもくださった先輩方に感謝の意を伝えたいです。私は山岳部に入って、優勝できて本当に良かったです。こんな思いを先輩にも抱いてもらえるように、来年も狙うは優勝、「二連覇」を新たな目標としてまた練習を積み重ねていこうと思います。

JMA

守ります。美しい日本の山。

あなたの保険は、 安心して登山ができる保険ですか。

救助費用はタダではありません。

■平成22年山岳遭難の概況

(警察庁生活安全局地域課 平成23年6月10日)

発生件数 **1,942** 件 (前年対比 266 件増)遭難者数 **2,396** 人 (前年対比 311 人増)死者・行方不明者 **294** 人 (前年対比 23 人減)詳しくは → www.jma-sangaku.or.jp

お問い合わせは

日本山岳協会 山岳共済会事務委託：日本山岳協会山岳共済事務センター
月～金 10:00～17:00 (土・日・祝日除く)〒170-0013 東京都豊島区東池袋 3-7-11-707
TEL: 03-5958-3396 FAX: 03-5958-3397
E-mail: sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

登山教室「参加者は」

群馬岳連登山指導委員会 高橋 守男

二〇一〇年までの七年間を昨年

まとめてみた。その上に立ち、県内の登山者に岳連が何を提供できるかを模索しつつ、登山事故防止と、余裕のある登山楽しい登山を目標に、恒例の登山教室が開催された。

読図の現地講習と登山の実技講習を三国山と荒船山で行った。昨年に引き続き宿泊なしで行った。

四十一名の申込があつたが、参加者は三十八名、全回出席で修了証を獲得された方は二十人であつた。参加者の構成は後述する。十五人の講師により無事終了することができた。

また、二〇〇六年度から始め今年度で六回目となるスノーシュー講習を二月に湯檜曾川で予定している。昨年度より四名多い十六名から申込みがあり、参加者のニーズに添えていきたい。

概要・反省・課題として次のようにまとめられると思う。これら

を次回へ活かしたい。

①参加者の年齢構成 三十八人中

参加者年齢	男	女
30歳～	5	4
40歳～	3	1
50歳～	4	7
60歳～	7	7
最大	67	65
最小	30	33
平均	50	53
合計人数	19	19

②全回参加者の構成

全回参加者	男	女
30歳～	1	2
40歳～	3	1
50歳～	1	6
60歳～	4	2
合計人数	9	11

③知ったのは

インターネットで	2
新聞で	6
知人から	8
店のパンフで	14
他	11

④実技講習の山の選定について

集まりやすい県中部の山でなく北毛や西上州の山での実技講習となつた。荒船山では参加者の減少がみられたが、選定地域に問題があつたか否か検討を加えたい。

⑤実技講習内容の整理

昨年の反省会で、実技講習内容が班により違いがある事が指摘された。講習内容の一覧表を改善してこれに対処してみた。講師の持ち味も加味しながらさらに改善し

が班により違いがある事が指摘された。講習内容の一覧表を改善してこれに対処してみた。講師の持ち味も加味しながらさらに改善し



三国山山頂にて

ていきたい。

⑥講師について

多忙な講師が多く、実技講習への参加依頼が例年になく難しかった。特定の人に集中することなく多くの人で分担していくのが組織の行事運営には大事だと思われる。

内容 (参加者数)

四月十九日(火)
準備会 モダンG

九月七日(水)

開講式・講義 (38)

「読図」 講師 山田

九月十一日(日)

登山実技「三国山」(30)

九月二十八日(水)

講義 (36) 講師 月岡

「救急法」 講師 月岡

十月一日(土)

登山実技「荒船山」 (23)

十月五日(水) 講義 (32)

閉講式「修了証交付」 講師 高橋

「登山計画」 講師 吉田

「読図 その二」 講師 高橋

講師

阿部 源(群馬ミヤマ山岳会)

新井 好司(高体連) 事務

久保田一美(太田山岳会) 受付

佐藤 洋志(松井田山岳会)

鹿田 雄三(高体連)

蘭田 武明(高体連)

高橋 守男(沼田山岳会) 総務

月岡 武久(岳連 参与)

角田 守(前橋山岳会)

登坂 巖(高体連) 会計

星野 俊充(境町山の会)

茂木 稔(群馬独峰山岳会)

山田 精一(高体連) 事務

横山 寿雄(高体連)

吉田 直人(境町山の会)

群馬岳連七十年記念座談会報告

群馬岳連副会長 八木原 紈 明

二〇一一年（平成二十三年）が岳連創立七十周年になる、ということは私の「群馬県山岳連盟」と言うファイルの表紙の裏に数年前から書き留め、忘れてはいなかった。しかし私自身は数字的に良いのは七十五年か八十年であろうとの考えもあり、個人的にも色々忙しいこともあり特別な事業はやりたくないと思っていたため理事会にも提案せず、七十周年には特別な記念事業は組んではおりませんでした。

しかし田中成幸元岳連副会長よりの羽野岳連会長や私への「七十周年にあたり、特別な事業はやらないにしてもせめて五十周年の時のように座談会をやり、前回出席者の次の世代の皆さんの話を残しておけないのか。今のうちに群馬岳連の歴史を後輩に正しく引き継いでおきたい」との提案がされる。「是非とも」となり計画されたものである。

今の群馬県山岳連盟は「群馬県山岳聯合会」を前身として昭和十六年（一九四一年）に結成されました。

昭和十五年創立の水上山岳会の前身、「水上スキー山岳会」が昭和五年、高崎山岳会の前身、高崎山岳クラブが昭和六年、吾妻山岳会が昭和七年、渋川岳想会が昭和十五年、そして前橋山岳会が昭和十五年という事になりますが、その前身の「前橋ホワイトペアー・スキークラブ」は昭和四年です。

昭和二十三年に群馬県山岳聯合会は「群馬県山岳連盟」と改称し、五十周年の一九九一年前後には五十周年誌発行（平成三（一九九二）年七月一日）、五十周年記念の冬期サガルマータ南西壁登山（九十一〜九十二冬期、九十三〜九十四冬期）などが実行されました。

五十周年誌には「座談会『岳連創立の頃』」と題して大先輩の皆

さんにお集まり頂き、創立の頃の話をさせていただき記録を残したが、その時点でも創立時の大先輩の皆さんの多くはすでに亡くなっておられた。初代会長の水上町（当時）の阿部一美、第二代会長・浜名一雄（旧倉渕村。現高崎市）、副会長を務められた宮崎五郎平、味岡益太郎、岡村隆造、高塚和雄、赤石春親の各氏である。

そして五十周年時の出席者六氏のうち、田村朝之助さん（二〇〇歳）以外の五氏の皆さん（中島喜代志、吉田元、川浦三四郎、中島

福三、須田淑人さん）はその後鬼籍に入られました。

どなたにお願いするかという問題もあったがあまりむずかしく考えずに年齢や若い頃の登山歴などからお願いくことにした。

石井謙一郎、井上孝行、太田忠行、川辺柳一、黒川篤、関剛房、仙田一夫、田中成幸、土岡松男、羽野順一、原田惣司、樋口宗平、細谷桂三、堀江登志夫の十四氏。（小林二三雄、定形良輔、渋沢真一の三氏は都合で欠席されました）座談会の内容は以下のような事

を中心発言をお願いした。

一、冬山登山の基礎技術は何時頃、誰に教わったか。

二、その頃どんな冬山登山を実践していたか。

縦走や登攀の記録。

三、どんな冬山登山装備を使っていたか。以下のモノを具体的に。

冬用テント、コンロなどの火器、登山靴、ヤッケ、下着など。

*但し、内容は当日の話の展開次第で適当に広げること

は構わない。

これらについての内容で当時の群馬県内の山岳会の登山レベルがある程度わかるであろう、ということとで設定した。折角の機会なので岳連会員にも聞いて頂くことにし、また勤労者山岳連盟にも案内を送った。

場所は上毛会館（前橋市岩神町）、日程は平成二十三年十一月十九日（土）の午後二時〜六時までの四時間という長時間にし、十名を超える皆さんに十分に話して頂くことにした。

最終的には上記の十四名の皆さんがご出席下さり貴重な話を聞かせていただけたが、テープ起こしは時間がかかるので全報告にはもう少し時間を頂きたいが、印象としては、群馬の登山界は鵬翔山岳会の力に負うところがとにかく大きかったことだけははつきりしたということである。

終了後に懇親会を行い座談会の続きの話に花が咲いた。お話をし下さった皆さん、会場で耳を傾けて下さった皆さんにお礼を申し上げます。報告書はもう少し時間を下さい。次は十年後の八十周年記念事業でしょうか？（その時には私はもう失礼しておりますが）



こんなテクニック知ってますか？

補助ロープ用スローバッグ

大間々山岳会 福田 純一

このロープバッグは六mm×二十
〜三十m程度の補助ロープを遠く
に投げるシーンで有用です。また
この径と長さでは八〜九mmよりか
えって携行・取出しにくいことも
解消しています。

バッグ自体はラグビーボール形

の洗濯ネットを

使用していま

す。沢登りでは

水はけ良く重宝

です。

写真を見てい

ただくだいた

い判ると思いま

す。セカンドへ

投げる側はバッ

グの底を通して

ハンドループ

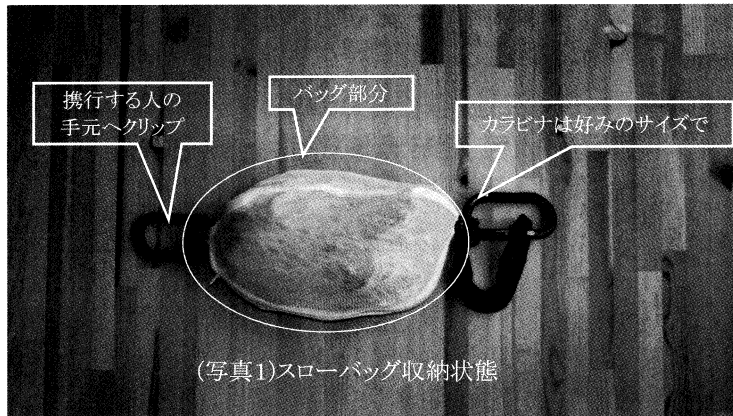
としています。

バッグの内側直

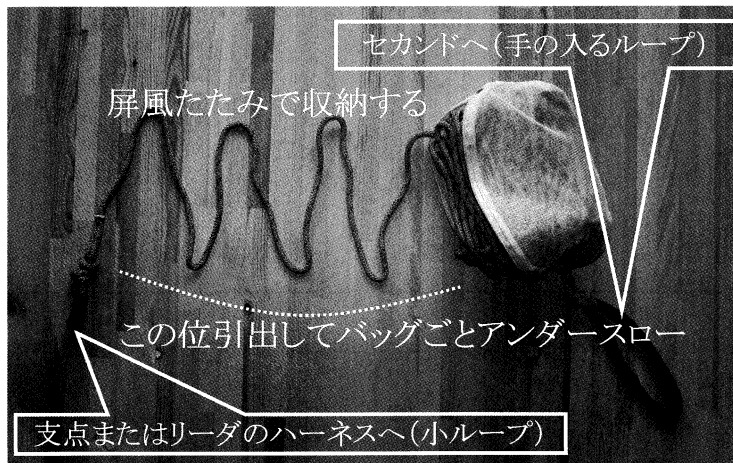
後に抜止として

結びをするか

バッグに縫い付



スローバッグ収納状態



屏風風たたみで収納

けます。(私はここに浮きボール
を入れていきます。使わなくなつた
発泡ウレタン製の握力トレーニング
ボールです) 反対端はハーネス
に下げて携行・あるいは支点にク
リップする為の小ループとしてい
ます。

さて、収納ですが、必ず屏風た
たみにします。巻いてはいけませ
ん。なぜ?と考える方は、ぜひ投
げ比べしてみてください。

投げ方はアンダースロー。腕を
バックスイングできる程度にロー
プを引き出したらバッグ全体を鷲
掴みで投げます。

なお写真の補助ロープはファイ
ントレック社のフロートイング
ロープです。比重が水より小さい
のでドライ・ウェットを問わず水
に浮きます。当然、装備の軽量化
にも有利です。

味のりんご

アンナプルナりんご園

沼田市上久屋町 1231 TEL・FAX 0278-23-6802
<http://annapurna.jp>

annapurna

総合建設業 空調・衛生・消防設備工事

石原工業株式会社

本社 浜川市有馬 164
☎ (0279) 24-7111(代)

工事部 浜川市赤城町北上野 203
☎ (0279) 56-8111(代)

電話、弱電工事

プモリ電設

〒379-2223
伊勢崎市小泉町 252
☎ 0270-62-2012



(有) 山とスキーの店 石 井

DreamBOX

伊勢崎市宮子町 3448-2
TEL 0270-21-8025 FAX 0270-21-8026